

エコ湧〜く

かわら版

【発行所】

別府市環境課

〒874-8511

別府市上野口町1-15

TEL 21-1134

FAX 21-1105

e-mail : env-le@city.beppu.lg.jp



野良猫への無責任な餌やりはやめましょう



野良猫への無責任な餌やりは、町に多くの野良猫が住みついて糞尿などで迷惑になります。私たちが『動物をペットとして飼う』ということは、餌を与えることはもちろん、トイレのしつけ、糞の処理、近所への配慮(場合によっては避妊・去勢手術)など、飼い主としてのさまざまな責任を持つということです。その責任を果たすことによって、ペットはかけがえのない家族になるのです。

野良猫に餌を与えるのであれば、ペットを飼うのと同じ責任が発生します。野良猫がかわいそうと思うのであれば、きちんと飼ってください。そうすれば、野良猫は幸せになれるはずです。

あなたの住んでいる町にも、猫や犬の糞の被害などで困っている人が多くいます。野良猫を増やす原因はすべて人間にあります。無責任な餌やりはやめて、きれいなまちづくりをしましょう。



制服のリユース(再使用)しませんか?



卒業のシーズンとなりました。今まで大切に使用してきた制服を卒業と同時に着なくなってしまうのは寂しいですね。着なくなった制服を知り合いなどに譲る方もいらっしゃるかもしれませんが、そのまま家庭に眠らせてしまうという方もいらっしゃるのではないかと思います。捨ててしまうのはもったいないし、どこかに持って行けば使ってくれる人がいないかなと思った方、リサイクル情報センターへお持込みをしませんか?

リサイクル情報センターでは「リユース(再使用)コーナー」を常設しており、市民の方からお持込みいただいた、状態の良い大人服からベビー服、制服など幅広く展示しています。別府市民の方であれば1ヶ月3点まで無料でお持ち帰りいただけますのでぜひご利用ください。

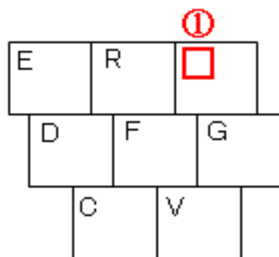
対象の制服：市内の学生服(中学校・高校)、市内の園服(保育園、幼稚園)
 問い合わせ：別府市リサイクル情報センター(上野口町19番22号)
 電話番号：25-5310



〜パズル問題〜



□にあてはまる「アルファベット」を□の上にある数字順にマスに入れると、ある英単語になります。



訓 NA ← 葉 ⇒ 音 SAI
 訓 □□ ← 葉 ⇒ ⑥⑦⑧ □□□

す ⇒ H
 さ ⇒ O
 た ⇒ C
 ち ⇒ ④ □

⑤ 1 □ g × 1000 = 1 t

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

--	--	--	--	--	--	--	--

★答えは裏ページの下を見てね★

◆◆◆ ごみ行政に携わって ◆◆◆

私はごみ行政に携わってもうすぐ20年になりますが、この20年で大きく変わってきたのは、間違いなく「リサイクル」でしょう！

もともと資源が乏しい日本では、紙や金属類のリサイクルは昔から行われていました。しかし、大量生産・大量消費社会によるごみ処理問題の対策として、リサイクル技術が発展し「ペットボトル」や「家電製品」などをリサイクルするしくみが確立されてきました。



私たち大人は、その過程を知っていますが、今の子ども達は物心ついたときからリサイクルが普通のこととして行われてきています。そのような世代に、「どのような目的でリサイクルするしくみが生まれ、どのような成果が出ているのか。」などの啓発活動を行っていくことが必要だと考えています。

私たちが無意識に無限と思っているものが実は有限だったりするのかもしれない。

◆◆◆ ∞(無限)? ◆◆◆

不謹慎ですが、結婚生活が長い夫婦の方にお互いの相手のことについて質問したら「空気みたいな存在」と答える方がいます。何と言う賛辞でしょうか！

空気は当たり前のように存在し、であるからこそ存在を軽んじてしまいがちで、それについて考えようとは思いません(ここまで書くと「賛辞じゃないだろう!」と言われてしまいそうですが…)

空気に限らず、太陽・空・海・山・水なども人間が生きて行く上で必要不可欠な物で、それらの連鎖が私たちの美しい地球を維持し続けているのです。

ごみ減量の啓発活動というのは本当に難しいと感じています。性別、世代や生活環境などによって、同じ事を伝えてもそれぞれの捉え方は違いますし、何より啓発活動の効果というのは目に見えたり数字で確認できるものではないからです。ですが、啓発活動なくして、リサイクルを含めた環境政策は成り立ちません。多くの方に環境問題について意欲的に取り組んでいただくため、市の職員として、そして一個人としても、精一杯がんばって行きたいと考えています。

最後になりますが、ペットボトルをリサイクルするためには、ボトルと違う素材でできているキャップとラベルを外すことが必要です。ペットボトルをリサイクルすることは、「原料である原油の節約」や「生産エネルギー・二酸化炭素排出量の半減」、「最終処分場の延命」につながりますので、皆さんのさらなる御協力をお願いいたします。【M・D】

私もそうですが、日々の生活に追われてしまいがちで、どうでもいい事と切り捨てて、それらからの恩恵に感謝したり考えたりすることは、少ないのではないのでしょうか。私たちが無意識に無限と思っているものが実は有限だったりするのかもしれない。



1年に1度でもいいので、お散歩がてら近くの公園などに出掛け、太陽の光を浴びて風を感じながら木々の緑の眩しさに包まれて深く深呼吸し、ゆるりとした時間を過ごしてみたりするのはどうでしょうか。

忘れていた大切なものを再確認させてくれるかも…。【E・O】

◆◆◆ エコ感覚 ◆◆◆

先日、色の科学に関する本を読んだ。その本の受け売りであるが、人には3色性の色覚があるそうで、ネコは2色性でアリは色覚を持たないという。ミツバチなどは紫外線も感じる事ができるらしい。その色の感じ方は動物それぞれで違うらしい。

環境問題も、この色覚のように人それぞれのエコ感覚というものがあると思われる。ある人には納得できるエコでも、別の人にはそうでもないということもあろうし、またその逆もわかりである。人によってエコに対する尺度が違うのでそういう事態が起こるのであるが、それはその人を表していると言っても良いのかもしれない。

個人のエコに対する物の見方はその人の生活環境や住環境、年齢、性別、生きてきた時代背景、教育によって決定されると思われるからである。そうすると、多様な人の生活をすべて平均化することはできないので、エコ

に対する一方的な考え方(理想像)を一律に、すべての人に押し付けても、人によって温度差が出るのは当然である。

エコ活動に差が出るのであれば、そのままでも良いという訳でもない。「人類が将来を見据えて地球のために、今すべきこととは何か」という命題が存在するが、それを一体誰が解決するのであろうか。それは、地球の住人である我々に他ならない。



ただし、一人だけということにはならないし、多くの人が協力しなければできない大きな問題でもある。しかも、各自がエコの観点からできることをすることが大事である。一人ひとりが協力するということは、人まかせでなく今の生活を少し我慢することである。一人の我慢もみんな我慢すれば、実は我慢とはならないのである。

【H・H】

平成20年6月号の創刊以来、10年にわたり市民の皆様にご愛読いただきました「環境新聞 エコ湧〜く」ですが、平成30年3月号をもちまして一時休刊とさせていただきますことになりました。

これまでご愛読くださった市民の皆様、紙面にご登場いただいた関係者の方に、深く感謝申し上げます。